



元気のプログラム ～良い習慣の形成を～

校長 岡留 祐宏

新年度が始まって一か月。一年生の子どもたちも学校の生活にもずいぶん慣れ、元気に過ごしています。どの学年の子どもたちも、新鮮な気持ちとそれぞれの目標を持って過ごしたと思います。

子どもたちには、毎日を意欲的に過ごしてほしい。そのためには、家庭でも学校でも、心や体を元気にする営みが大切だと考えています。それはつまり、「良い習慣づくり」のことです。毎日、同じことを繰り返すことを面倒くさく感じたり、やる気がわかなくなったりすることもあると思います。この一か月を振り返ると、どうだったでしょうか。

長期に渡って繰り返される生活スタイルが、その人の生活習慣です。良い習慣がつけば、体も心も「生きる力」が高まり、幸せ感を得やすくなります。ところが、悪い習慣がつくと、知らない間に健康面等に悪い影響を及ぼします。長い時間をかけてつくられたものを元にもどすには、その何倍もの時間とエネルギーが必要です。

『習慣は第二の天性なり』という言葉もあるようです。長い人生の中で、小学生のうちから良い習慣を身に付けられるようにしましょう。読書(本や新聞を読む)の習慣があると学力が高い。夜型生活による睡眠不足、朝食抜きだと授業に集中できなくなり学力がつかないなどのデータ結果も出ています。この一月を振り返り、毎日が元気で意欲的に過ごせる「良い習慣づくり」に学校、家庭で取り組みましょう。



チャレンジ体育(全校)で体力づくり

奉仕の心と自尊感情を

毎朝、8時になると子どもたちが運動場に出てきて清掃や花壇の手入れなどのボランティア作業を始めます。

正門前の緑地帯では、毎朝、6年生が落ち葉を掃き集めて運んでくれます。休み明けの月曜日などは、特に落ち葉が多く、リヤカー1台では足りないくらいの量になります。

他の学年の子どもたちも、花の水やり、草取り、花殻摘みなどに取り組んでいます。毎朝のこうした作業が学校美化の力になっています。

子どもたちには奉仕する気持ちと共に、自分たちの学校をきれいにする一翼を担っているとの自尊感情を持ってほしいと思います。



敬愛・感謝の心を育てる

給食の準備時の様子です。

当番の子どもたちは、担任の先生と一緒に、給食コンテナの前に整列して、「〇年生です。給食をいただきにきました」と、担当の先生に告げ、食缶を受け取ります。全員で「ありがとうございます」と言って教室に運んで行きます。

南界小学校の「めざす児童像」には、「まわりの人に敬愛・感謝の気持ちを持って、礼儀正しく接することができる」という文言があります。給食を作ってくださった方や食材を育ててくださった方、それを運んでくださった方々を敬愛し感謝する心を育てる大切なやりとりだと思います。

給食に携わる方々の気持ちを感じると、運び方も自然に丁寧になるように思います。



島内で声かけ事案が多数発生してるようです。今朝もパトカーが巡回しながら、「いかのおすし」の対応を広報していました。防犯ブザーの点検、携帯にご配慮ください。不審者情報は、警察&学校へ連絡をお願いします。